

ラジオが好き。



こんな本



読んでみて

June - July 2018

No. 71

## 目次

MIETAN 本つなぎ 第1回	1
ラジオが好き。	5
Book design の世界 vol.2	10
ちょこちょこ日記 #11	12



第1回の本つなぎメンバーは  
こちらの2人★



ペーじゅんさん  
法律コース 2年



こいとさん  
法律コース 2年

三重短生のおすすめ本をリレーして  
三重短を本でつなげよう！

新コーナー「MIETAN 本つなぎ」  
はじめます！



ー 三重短生に登場してもらおう「MIETAN 本つなぎ」。図書館ボランティア部のお二人にトップバッターを飾ってもらいます。よろしくお祈いします。

ペーじゅん・こいと よろしくお祈いします。

ー 部長のペーじゅんさんから、おすすめの本を紹介してください。

ペーじゅん 「博士の愛した数式」(小川洋子著/新潮社)です。高校生の時に読みました。数学の学者である博士と家政婦さんの話です。博士は家政婦さんの息子の頭が√のようだからと、ルートと呼びます。博士がルートを愛したという話になっています。野球好きな博士とルートが野球観戦に行った時、ファウルボールが飛んできて博士がルートに覆いかぶさるところが、愛を感じる好きな場面です。

ー とても素敵な場面ですね。

ペーじゅん ルートもまた博士のことを思っていて、博士の好きな野球選手のカードを探したりと、愛されて愛する関係がいいなと思いました。

こいと 前から兄におすすめされているんですが、まだ読んでなくて。数学が苦手なのでちょっと避けてしまっていました。今回おすすめしてもらったので読んでみたいと思います。

ペーじゅん 難しい数式も出てくるけど、日常に沿った数字として見るができると思います。





ー 続いて、こいとさん。おすすめ本の紹介、お願いします。

**こいと** 私が紹介するのは『フェリックスとゼルダ』(モリス・グライツマン著/原田勝訳/あすなろ書房)です。舞台は第二次大戦中のポーランド。ユダヤ人の両親は息子フェリックスを救うため孤児院に預けます。フェリックスが両親を探す旅の途中、両親のいない少女ゼルダと出会い、共に旅をする中で、次第に絆が深まり2人で生きていくという物語です。

ー いつ読んだ本なんですか？

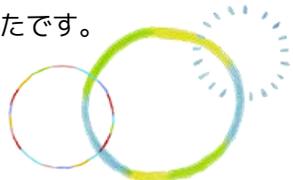
**こいと** 中学3年の時ですね。読書感想文の本が見つからなくて、読書感想文コンクールの課題図書になっていたのを読みました。読んでみたらおもしろくて。1日2日で全部読んで、感想文も一気に書きました。そして、読書感想文コンクールで市長賞をいただきました！

**ペーじゅん** すごいね！

**こいと** 出てくる子どもたちは、初めはお互い警戒しているけど、子どもにとってはユダヤ人やドイツ人は関係なくて、子どもだからこそできる関係で、大人だったらこうはならないな、と今読み返すとそう思ったりしますね。何となく選んだ一冊だったんですが、思い出深い一冊ですね。

ー 本とのいい出会いができましたね。

**こいと** 他には、『優しい音楽』(瀬尾まいこ著/双葉社)も好きですね。図書館で出会いました。短編集です。タイトルにもなっている「優しい音楽」という話が好きでした。瀬尾まいこさんの作品、やさしいんですね。『戸村飯店青春100連発』(瀬尾まいこ著/理論社)もおもしろかったです。



### ● 3つの質問 ●

ー お二人に3つの質問です。まずは、①今はまっていること、教えてください。

**ペーじゅん** 携帯ゲームですね。「にゃんこ大戦争」っていう。結構シュールなんですけど、やりこみ要素があって奥深いのではまっています。キャラクターを育てて戦わせて相手の城を壊すゲームです。

ー ゲームとかするんだね！普段の活動の時はゲームの話とかしないもんね。こいとさんのはまっていることは？

**こいと** アイドルです。モーニング娘。'18が好きです。スマートフォンのアイドル育成ゲームも何種類かしてて。「アイ★チュウ」とか。アイドルのアニメやゲームも好きです。アイドルというものが好きなんです。

ー ペーじゅんさんは、アイドルで応援している人はいますか？



**ペーじゅん** 高校の時、同じクラスだった子が、欒坂46に入ったので。応援しています。



**こいと** すごいね！私の兄の同級生も、中学からアイドルグループに所属していて。今は卒業してタレントとして活躍しています。芸能人オーラが漂っていてすごかったです。

ー 2人ともすごいですね！次に②好きな場所を教えてください。

**ペーじゅん** ふとんの上ですね。寝るのが好きなので、ごろごろして考え事をしたり、ゲームしたり、本を読んだり。

**こいと** 私も同じ感じですが、自分の部屋です。自分の好きなものが全部そろっているのが好きです。

**ペーじゅん** 一人暮らしなので、必要なものは手の届くところに全部置いてありますね。(笑)あとポケモンのぬいぐるみがあります。小学生の頃、プレゼントしてもらったもので、実家から持ってきました。

ー 大事にしてるんですね。すてきです。

**こいと** 私もふとんのまわりはぬいぐるみやクッションで埋めつくされています。

ー ぬいぐるみいいですね。つつい集めてしまいますよね。

—最後に、③はじめの一冊の思い出。教えてください。

ペーじゅん 『一瞬の風になれ』(佐藤多佳子著/講談社)を中学生の時に読みました。サッカー部だった子が陸上部で成長していく物語で、陸上部だったので共感できる場所があって好きでした。

こいと 私は『黒執事』(枢やな著/スクウェア・エニックス)です。姉が友達に借りてきてまして。中世イギリスが舞台で、とにかくすごく絵がきれいで。中学生になって自分で買ってそろえました。一番好きなマンガと言っても過言ではないですね。

—マンガ読みますか？

ペーじゅん あまり読まないんですが。兄が『スーパーマリオくん』(沢田ユキオ著/小学館)を持っていて。最初の方がすごく好きで、実家でたまに読んでみます。ネタがおもしろくて。「地図を持ってきたか?」「迷わないようにマヨワネズをもってきました!」みたいな感じで。(笑)

—(笑)楽しそうですね!元気が出そう!

こいと 私も兄や姉の影響が大きいのですが、中学・高校の図書館の影響も大きくて。『うちのとこでは』(もぐら著/飛鳥新社)も図書館にあって読みました。47都道府県がキャラクター化されていて、各県の事が分かったり、三重県の話では共感したり、笑い転げるくらいおもしろくて好きです。

ペーじゅん 僕は静岡県出身で、三重に来た時、語尾に「〇〇さー」とつくのが印象的でした。

こいと あと「机をつる」とか?

ペーじゅん 何だろうと思った。「運ぶ」とか「下げる」って言ってたな。

こいと それこそ『うちのとこでは』を読んで、「つる」って全国共通じゃないの!??って思いました。

ペーじゅん 静岡では「だらー」ってよく言います。「だらー」だけで会話をしたり。「本だらー?」「だらー」みたいな感じで。「そうだよな」みたいな意味ですね。

—知り合いにアイドルがいたり、部屋に大切なぬいぐるみだったり、お兄さんやお姉さんの話も出たりと、共通点がたくさんありましたね!方言の話まで盛り上がって楽しかったです!ありがとうございました。

ペーじゅん・こいと ありがとうございました。

今回の MIETAN  
本つなぎ ★...三重短図書館にあります

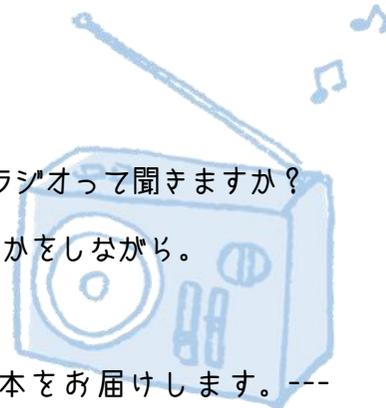
- ペーじゅんさん●  
『博士の愛した数式』★(小川洋子著/新潮社)
- こいとさん●  
『フェリックスとゼルダ』  
(モーリス・グライツマン著/原田勝訳/あすなろ書房)
- 『優しい音楽』★(瀬尾まいこ著/双葉社)

1



次の2人へ本つなぎ。次回もお楽しみに♪

# ラジオが好き。



--- みなさん、こんにちは。突然ですが、ラジオって聞きますか？

勉強しながら、ぼーっとしながら、何かをしながら。

それとも、じっくりと耳をすまして。

今回は【ラジオ】をテーマにした本をお届けします。---

## - ラジオとの関係 -

まずは、この本。『ラジオ・ガガガ』です。

ラジオをテーマにした5つの短編小説がおさめられています。いろいろなジャンルのラジオ番組、ラジオとのさまざまな関わり方が描かれています。NHK創作ラジオドラマ大賞を受賞した著者ならではの視点が活かされています。

パーソナリティに感じる憧れや親しみ、暗闇の中で聞くラジオ、ラジオを作る側の葛藤。そんなたくさんの気持ちにラジオが寄り添ってくれる。ラジオに励まされたり、一歩踏み出したり、友人や家族の気持ちに気づいたり、ラジオが人とつながるきっかけになったり、ラジオの力を感じることができの一冊です。



## 『ラジオ・ガガガ』

RADIO GAGAGA』

原田ひ香 著

双葉社

913.6||H 32



### 『ハガキ職人タカギ!』

風カオル 著  
小学館  
913.6||Ka 99

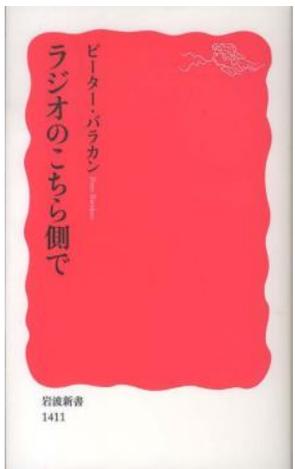
#### - 大好きということ -

次は、『ハガキ職人タカギ!』。

主人公は高校2年生の高木くん。実は深夜ラジオではちょっと有名。ネタを投稿するハガキ職人、ラジオネーム[ガルウイング骨折]として。

ひっそりと、真剣に、ハガキ職人をしている高木くんは、ハガキ職人のイベントに参加することで、少しずつ変わり始めます。

大好きなことがあるという苦しさと幸せを感じる一冊でした。ラストのスピード感、圧巻です。



### 『ラジオのこちら側で』

ピーター・バラカン 著  
岩波書店  
002||Is||1411

#### - ラジオと音楽 -

ラジオと切っても切り離せない音楽。

3冊目は、ラジオやテレビの音楽番組を中心に活躍するピーター・バラカンさんの『ラジオのこちら側で』です。

1974年にイギリスから来日。会社員として働きながら、ラジオの仕事をはじめました。音楽シーンやラジオの変化をたどりながら、影響を受けたDJや選曲へのこだわりなどが語られます。自分の好きな音楽をとことん追求する姿がとてもカッコいいです。



### 『明るい夜に出かけて』

佐藤多佳子 著  
新潮社  
913.6||Sa 85

#### - 近くにいる -

ラジオって聞いているだけで、近くにいる感覚がします。それも、とてもとても近くに。私に語りかけてくれているような。そんな気持ちを思い出した作品『明るい夜に出かけて』を紹介します。

この作品は、ラジオをメインにしながら、若者のもどかしさやむずがゆさを描いています。

実際に放送されていた「アルコ&ピースのオールナイトニッポン」をはじめ、その他人気番組が登場します。一緒にラジオを聞いている感覚です。

中盤、タイトルの「明るい夜に出かけて」が思いがけない形で登場して、心を打たれました。

離れていても、つながっている。見えなくても、努力している。語らなくても、わかっている。そんなラジオ愛であふれています。





## 『想像ラジオ』

いとうせいこう 著

河出書房新社

913.6|| 89

### - ラジオと本は似ている -

今回の【ラジオが好き。】、最後に紹介するのは、一味違ったラジオです。『想像ラジオ』。

たとえ上手のおしゃべり屋DJアークがお届けするのは、想像力の中だけでオンエアされるラジオ、その名も「想像ラジオ」。DJアークの想い、そして流れる音楽。次々と届くりスナーからのメールには、様々な想いが込められています。

東日本大震災を背景とした物語です。聞いた声があるー。どうしようもないどこへも行き場がない気持ちー。どう向き合っていくのか。考えながら読み進めました。

見えないけれどそこにあるものを想像して、どんどん広がっていくー。そんな向き合い方が、ラジオと本は似ている。そんなことを思いました。

---いろいろな【ラジオ】の本をお送りしました。

それではまた、ラジオでお会いしましょう。---



## ラジオが好き。 - 私とラジオ。ラジオの思い出 -

### ペーじゃんさん と ラジオ。

父が工事をしてお風呂にラジオをつけてくれたので、お風呂でラジオを聞いていました。ラジオで聞いていいなと思った曲をスマホに入れたり、しゃべりがおもしろい地元のラジオを聞いていました。

### こいとさん と ラジオ。

ラジオは、スマホで聞くことが多いです。聞きたいラジオが夜遅いので聴きながら寝ちゃうこともあります。

中学・高校のころ、スクールバスでラジオが流れていました。雨に日にラジオから流れてきた曲が、その日の雰囲気ぴったりだなと思って、印象に残っています。

ラジオと言えば、やっぱりラジオ体操！家からラジオを持って行くラジオ当番というのがあって、遅れた時はラジオ体操を流しながら走って行ったのを覚えています。

### なさん と ラジオ。

私はラジオをよく聞いていて、ラジオで新しい音楽を発掘することが多いです。昔は急いでメモを取っていたけど、今はラジオアプリで後から情報を調べることができて、とても便利になりました。

子どもの頃、常にラジオがかかっている家でした。家には神棚のようなラジオ置き場がありました。「みんなのうた」が終わったら学校へ行く、そんな風に時間の配分もラジオでしていました。そのころ流れていた「みんなのうた」は家族みんな覚えています。

父が休日の間、家にいる時は、ラジオたんぱを流していました。父が寝ているようなので、ラジオを切ると「寝てない」と言ってつける、「絶対寝てたよー」と、そんな攻防が繰り返されました。

ラジオは私の家族にとって欠かせない、共通の思い出になっています。

# Book design

## の世界

vol. 2

池田 進吾 さん

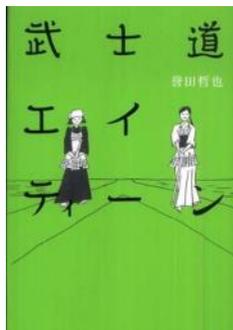
(6 7)

本を選ぶ時、表紙や本のデザインに惹かれて選ぶことがあります。本を開くとそこに書いてある「装丁」という言葉と名前。

本の外装をデザインする仕事を装丁家やブックデザイナーと言います。この連載ではデザインや装丁家の仕事から、本を楽しみたいと思います。第2回目のテーマは池田進吾さんです。

池田進吾さんは、デザイン会社K2を経て、1997年「67(ロクナナ)」を設立。2009年には、第40回講談社出版文化賞ブックデザイン賞を受賞されます。著書に、画集『空の拳 挿画日記』(日本経済新聞出版社)、絵本『TONY トニー』(理論社)があります。ブックデザインを中心に小説の装画・挿画も手がけるなど幅広く活躍されています。

一冊目はこちら、『**武士道エイティーン**』(菅田哲也著/文藝春秋/2009年/913.6||H 84)です。「武士道」シリーズの第三作。「私たちは、もう迷わない。この道をゆくと、決めたのだから。」という冒頭の文章を表したようなイラストは、長崎訓子さんによるものです。しおりの紐は赤と白の2本、剣道の試合で使う紅白のたすきを思わせます。



イラスト：長崎訓子

続いては、『**ラン**』(森絵都著/理論社/2008年/913.6||Mo 45)。表紙には、白い丸に向かって走っていくような文字。ページ番号は463ページ分全て手書き！そしてストーリーの合間にある手書きのしるしと合わせて本の空気感を作っています。



『**紙の月**』(角田光代著/角川春樹事務所/2012年/913.6||Ka 28)。ピンクの空に浮かぶ月。この装画を見て、かわいいと思う人もいれば、不穏な空気を感じる人もいるでしょう。どちらにしても手にとってしまわず。装画の吉實恵さんは、三重県立博物館にあるこども体験展示室の壁のイラストも描かれました。



装画：吉實恵



装画：あずみ虫

『**園芸少年**』(魚住直子著/講談社/2009年/913.6||U 79)は、思いがけず園芸部に入部した高1男子の物語です。表紙の裏の見返しにはクラフト紙を使い素朴な印象です。そして、装画・あずみ虫さんのアルミ板を切って絵を書いた作品が、作品の持つあたたかさを届けてくれます。

今回、最後に紹介するのは、『**すっぽん心中**』(戌井昭人著/新潮社/2013年/913.6||I 59)。装丁は池田進吾さん自身によるものです。作品に出てくる霞ヶ浦の景色を見ているようです。人生の味わいをじんわりと伝える装丁です。



装画：池田進吾

池田進吾さんが以前在籍していたK2のグラフィックデザイナー・長友啓典さんとの対談の中で、「僕は本を“もの”として大事にして、少しでも長く手元に置いてもらいたいと思っていますし、そういう本を作ろうと心掛けているつもりです。」「この仕事を始めた時から変わらないことがひとつあります。その本を自分で持っていたいかどうかを大切にしているつもりです。」とお話されていました。今回紹介した本も、手元に置いてそっとなでたくなるような、ぬくもりを感じる本ばかりでした。そんな本との出会いを大切にしたいと思います。



## ちょこちょこ日記 #11 「乗り換え」

私は電車によく乗ります。が、決まったところへ行くばかりなので、乗り換えは苦手です。

この前、初めて行く場所へでかけました。調べると2回乗り換えがある！間に合わなかったらどうしよう、違うところに着いたらどうしよう、念のため早めに出発しよう、と前日からとても緊張しました・・・。

当日どうだったかと言うと、難なく乗り換えできました(^O^)/ありがとうございます!!!

でも、駅を出てから迷いました・・・。地図を読むのも苦手なんです。頼みの地図アプリもうまく動いてくれず(T\_T)行ったり来たりして、結果何とかたどり着きました。。。30分口スしましたが、間に合ってよかったー☆

時間に余裕を持って計画をたてるのが大切！とつくづく実感した次第です!!!



## こんな本読んでみて No.71

2018年6月1日 発行

編集・発行 三重短期大学附属図書館

〒514-0112 三重県津市一身田中野157

<http://www.library.tsu-cc.ac.jp/>